



夏は氷！

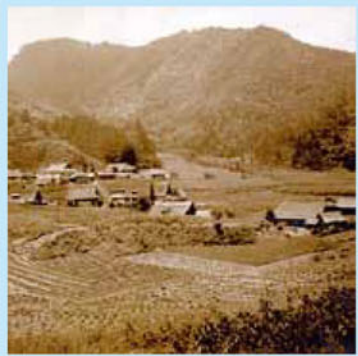
高尾の天然氷に涼を感じた頃



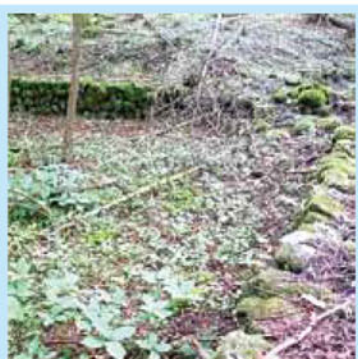
撮影された年代は明治～大正の頃とみられる(写真の台紙の記載から)。手前には製氷するための「氷池」が2段に見え、氷池に付随する施設が見える。写真では見えにくいですが、写っている人の後方、下の方に深沢川が流れており、その対岸にある建物が、切り出した氷を夏まで保管しておくための「氷倉」※である。馬の背に氷を背負わせて里へと下っていったという。



現在の氷倉の様子。建物は無く、氷を貯めるための半地下式の遺構だけが残されている。ボランティアにより倒木が除去されたため、壁の石積みなどがよく観察できる。



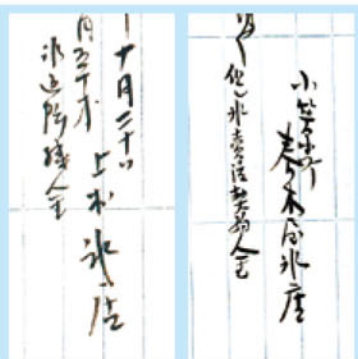
昭和30年代前半のころの高尾集落の様子。かやぶき屋根の家並みがうかがえる。氷作りや炭焼きなど、山の資源を活かした暮らしが盛んだった頃といえる。



現在の氷池の内部。川の流れが変わったことで水を引けなくなり氷作りを終えたと伝わる。このお宅には氷作りで使用された道具も残されている。



氷倉から深沢川をはさんだ対岸に整然と並んだ石積みが見え、現在も2枚並ぶ氷池の外観はその姿をとどめている。深沢川から水を引き込んだ水路跡なども残っている。



大正14・15年の「諸収入日記帳」には小笠原商店街の「春木屋氷店」さんや倉庫町の「上村氷店」さんの名前も見え、これらの商店へ氷を卸していたことがわかる。



このお宅に残されていた氷作りに関する史料は明治39年までさかのぼり(右端)、すでに「氷日当」の文字が見える。昭和の史料からは、「氷出し」「氷積込ミ」「氷倉土方」と具体的な作業内容がうかがえる。

高尾地区で作られていた「天然氷」

真夏の暑さが身にこたえてくる今日この頃ですが、そんな日はかき氷がおいしいですよ。全国では天然氷で作られたかき氷が人気ですが、かつては南アルプス市でも「天然氷」が作られていました。上の写真は楡形山の中腹にある高尾集落から少し谷へ下りた、深沢川の上流の風景です。標高は約八六〇mです。

高尾集落は穂見神社でよく知られますが、豊かな木々に囲まれ、林業や炭焼きなど、恵まれた環境を活かし山と寄り添い営んできた地域といえます。まさに氷つくりもその一つだったようです。

「氷」は高尾を代表する産業だった

氷作りを営んでいたお宅には、上の写真のほか帳面類などさまざまな史料が残されており、遅くとも明治三九年には氷作りをしていたことがわかりました。また、昭和初期の史料には従事されていた方のお名前もあり、高尾集落に暮らす方が多く携わっていたことや、氷池での氷の切り出しや運搬する作業のほか、「氷倉」の修理などの作業が行われていたことがわかりました。

小笠原や倉庫町で売られていた

氷室からは馬の背に括り付けて、小笠原や倉庫町の商店まで運び、販売されていたそうです。かつて倉庫町の氷を利用されていた上八田在住の方からお聞きすると、熱が出た時などの特別な時だけ購入できた高級なものだったそうです。

※1 一般には「氷室(ひむろ)」と呼ばれるが、このお宅の史料には「氷倉」と記されている。